

第 52 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	春日ゼミ	チーム名	タンタン組
タイトル	これからの王子動物園について		
テーマ群	a) 理論・情報 e) 産業・企業		
メンバー	習田太陽・枚田岳人・松永直斗・小野浩平・是川昌毅・林幹大・山崎星弥		
研究計画内容	<p>【研究の背景とその目的】</p> <p>王子動物園はジャイアントパンダやコアラに代表される多くの人気動物を擁し、長年多くの地元民や子供達に動物との触れ合いの場を提供してきた。2021 年に創設 70 周年という節目の年を迎えたが、全国の動物園が施設の老朽化や少子化に伴う来場者数の減少、円安やウクライナ情勢による餌代の高騰などで経営環境が悪化する中、将来的な王子動物園の存続も安泰ではないと予想される。このような背景を踏まえ、我々は、都市部に存在する公営の動物園としての魅力を高めるために、また将来的にも存続可能な動物園であるために、王子動物園がどのような施策を行っていくことが必要か、について調査研究することとした。</p> <p>【研究概要】</p> <p>最初に全国の公営／民営別動物園数と黒字割合を調査し、多くの動物園が公営で赤字経営に陥っている状況を把握する。次に、入場者数の多い動物園について特徴を調べ、入園者数を決定する要因について回帰分析を行う。この際、王子動物園の特徴の一つとして挙げている「日本で唯一ジャイアントパンダとコアラを同時に見ることができる動物園」であることが、集客に一定の効果があるか否かについても検証する。また施設の老朽化等、全国の動物園が抱えている共通する課題についても具体例を交えて説明する。</p> <p>これらの結果を踏まえて、王子動物園の魅力をどう高めていくかについて検討する。まず公立の園としての役割をどの程度重視するかで評価が大きく変わることを指摘し、その観点から、①入場料金や餌代の確保、老朽化対策等の資金面に関するあり方、②動物ショー開催や人気動物の入れ替え頻度の是非と認知度を高める戦略、③都市型動物園としての特徴と公園再整備計画との関係、について提言を行う。最後のまとめとして、長期的な視点から自治体間連携の必要性についても言及する予定である。</p> <p>【期待される効果】</p> <p>王子動物園の全国における順位と特徴を他動物園と比較することで、今まであまり知られていなかった魅力を広く周知することができる。またマクロの経済環境や自治体の財政状況の悪化が、種の保存や環境教育といった動物園の社会的役割を間接的に低下させるおそれがあることを理解するきっかけとなる。</p> <p>【参考文献】</p> <p>日本動物園水族館協会(2021)『日本動物園水族館年報（令和元年度）』</p>		